

出張報告書

令和 1 年 8 月 20 日

会派名 志誠会
会長 立崎 聡一 様

出張者氏名 近藤 憲治 

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和1年8月17日(土) ~ 令和1年8月18日(日) [2日間]						
出張概要	①	月日	8月17日	市町村名	名古屋市	会場	名古屋観光・コンベンションビューロー本部
		目的	社会教育と観光の融合に係る調査				
		テーマ	・地域の歴史遺産を伝える学習プログラムを観光に応用する手法を調査				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的	移動日				
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

社会教育と観光の融合に係る調査（名古屋）

「観光地の観光 PR は本当に顧客に響いているのだろうか」。全国各地の観光振興を調査する中で、突き当たった疑問である。パンフレット、SNS、ブログ、最近では動画。発信する手法は星の数ほどあるが、それが本当に響いているのだろうか。観光客向けの観光施設、美味しい食べ物、きれいなホテル、どの観光地も発信している中身は似たり寄ったりなのではないか。地元の人が誇りを感じるモノ、コト、歴史をきちんと伝えて、深い興味と理解で当地を訪れてくれる観光客が増えることが、地域にとっても望ましい、との前提に立ち、教育行政の社会教育部門と観光振興を意識的に融合しようとする公益財団法人・名古屋観光コンベンションビューローの杉崎正美理事長と意見交換を行った。網走とも縁の深い名古屋においては、製造業が地域経済のメインであり、「観光」については2005 年の中部国際空港の開港を機に、ようやく具体的な手法が確立されつつある時期に入ってきている。手羽先やみそ煮込みうどん、きしめん、みそカツなど名古屋メシ（料理）の知名度は上がってきているが、誘客につなげるという点で同ビューローが積極的に取り組んでいるのが、「歴史」を前面に押し出した観光 PR である。しかもその PR は、必要最低限の情報を網羅したパンフレットを作るのではなく、名古屋市の中학생向けの副読本から情報を抜粋し、スポットごとの話題に再編集するという大変ユニークな方法で行っていた。これは杉崎氏が元・名古屋市教育委員会の教育長だからこそなせる術なのかも、と想像してみたが、方法としては非常に面白みのあるものだ。パンフレットよりも中身が深く、地域の子どもたちも一緒に学んでいる内容であることから、今後の相乗的な取り組みにも期待が寄せられる。当市においても、郷土史や地域の特徴を伝える副読本がある。この副読本は大変読み応えのあるものであり、教育現場のための素材として終わらせること無く、観光用の素材としても応用する視点が必要であると改めて強く実感した次第である。